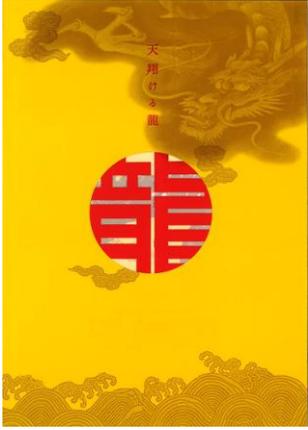


【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 3111

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(1) 調査研究の成果の発信								
【年度計画】 (東京国立博物館) 1) 東京国立博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。 2) 紀要・図版目録等を刊行する。 3) 文化財修理報告書を刊行する。 4) 法隆寺献納宝物特別調査概報を刊行する。 5) 研究誌「MUSEUM」(年6回)を刊行する。									
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	出版企画室長 池田宏						
【実績・成果】 (東京国立博物館) 1) (東京国立博物館情報アーカイブの詳細は処理番号 2411 参照) 2) 『東京国立博物館紀要』47号を刊行した。 3) 『東京国立博物館文化財修理報告書』XIIを刊行した。 4) 『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXII 聖徳太子絵伝5』を刊行した。 5) 研究誌『MUSEUM』631～636号を刊行した。									
【補足事項】 その他以下の出版物を制作した。2)～3)の出版物同様、各担当者の調査研究に基づく成果である。									
◎特別展図録 7件 『手塚治虫のブッダ展』『写楽』『空海と密教美術』『法然と親鸞 ゆかりの名宝』『孫文と梅屋庄吉 100年前の中国と日本』『北京故宫博物院 200選』『ボストン美術館 日本美術の至宝』									
◎特集陳列印刷物 ○リーフレット(無償) 4件 「石に魅せられた先史の人々」「東叡山寛永寺の歴史」「板谷家の絵画とその下絵」「東京国立博物館コレクションの保存と修理」 ○図録(ミュージアムショップにて販売) 1件 『天翔ける龍』									
◎名品紹介(ミュージアムショップにて販売) 2件 『東洋美術 100選 ハングル版』『横河コレクション』									
									
『天翔ける龍』の図録									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
『MUSEUM』発行		6回	6回	A		6	6	6	6
定期刊行物		3件	—	—		5	6	6	5
特別展図録・特集陳列印刷物		12件	—	—		6	11	10	12
その他		2件	—	—		1	2	2	2
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(1) 調査研究の成果の発信								
【年度計画】 (京都国立博物館) 1) 研究紀要「学叢」を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。 2) 社寺調査報告書等を刊行する。 3) 文化財修理報告書を刊行する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 久保智康						
【実績・成果】 (京都国立博物館) 1) 研究紀要『学叢』第33号を刊行した。 2) 『社寺調査報告書 25』を刊行した。 3) 『文化財修理報告書 第8号』を刊行した。 ○特別展等の図録を4冊刊行した。 ・浄土宗寺院の所蔵文化財の調査研究成果を盛り込み特別展覧会「法然」を開催し、図録を刊行した。 ・館藏品・寄託品の調査成果を盛り込み特別展覧会「百獣の楽園」を開催し、図録を刊行した。 ・永青文庫を中心とする各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展覧会「細川家の至宝」を開催し、図録を刊行した。 ・館蔵の須磨コレクションを中心に、海外も含め各収蔵先での調査成果を盛り込み特別展覧会「中国近代絵画と日本」を開催し、図録を刊行した。									
【補足事項】 ・『学叢』第33号で、論文2本、作品研究7本、修理報告2本を発表した。									
 <p>『学叢』第33号</p>									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
定期刊行物 特別展図録・特集陳列印刷物		3件 4冊	— —	— —		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 3113

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(1) 調査研究の成果の発信							
【年度計画】 (奈良国立博物館) 1) 研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、ウェブサイトで公開する。 2) 文化財修理に関する印刷物を刊行する。 3) 入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。								
担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長 稲本泰生					
【実績・成果】 1) 研究紀要『鹿園雑集』13号(24年3月)は24年度内の刊行に向けて現在準備中である。なお、収蔵品等に関する調査研究の成果を展覧会等図録・学術雑誌等の各種刊行物、研究会・講座等で公表した。 2) 文化財修理に関する印刷物に関しては、研究紀要『鹿園雑集』13号(24年3月)内に掲載する形で、24年度内の刊行に向けて現在準備中である。 3) 地下回廊の入場無料ゾーンにおいて、東京文化財研究所との共同研究による仏教美術の光学調査の成果、館蔵品の修理実績等に関するパネル展示を行った(通年)。								
【補足事項】 ・展覧会等図録5冊を刊行した。 『天竺へー三蔵法師三万キロの旅』(特別展図録) 『初瀬にまずは与喜の神垣ー興喜天満神社の秘宝と神像』(特別陳列図録) 『第63回正倉院展』(特別展図録) 『The 63th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録) 『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録) ・仏教美術資料研究センターの再オープンに際して図録『奈良国立博物館 仏教美術資料研究センター 重要文化財 旧奈良県物産陳列所』を刊行した。また『なら仏像館 名品図録』の改訂版を刊行し、学術協力した『聖徳太子 1390年御遠忌記念法隆寺展』の図録(3月刊行)の編集作業を行った。 (以上は全て作品解説付き、展覧会等担当者の総論や各論を掲載) ・東大寺ミュージアム開館記念図録『奈良時代の東大寺』に、当館学芸部の13名が論文・作品解説等を寄稿した。 ・読売新聞紙上で「鹿園観照ー奈良国立博物館で見る名宝」を連載するなど、展示作品について定期的な紹介を行った。								
【定量的評価】								
項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
定期刊行物	—	—	—	—	1	1	1	1
特別展図録・特集陳列印刷物	5冊	—	—	変	6	7	5	5
研究論文等発表実績	29件	—	—	化	21	16	22	33
総合評価	S A ③ C F(S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				ほぼ順調				



地下回廊パネル展示

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(1) 調査研究の成果の発信							
【年度計画】 (九州国立博物館) 1) 研究紀要「東風西声」を刊行する。 2) 文化財修理に関する印刷物を刊行する。 3) 保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。								
担当部課	学芸部博物館科学課 展示課	事業責任者	課長 本田光子 課長 赤司善彦					
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) 研究紀要『東風西声』第7号を刊行した。 2) 我が国の文化財保存修理の歴史をテーマとした特別展図録『よみがえる国宝—守り伝える日本の美』を刊行した。 3) 特別展「よみがえる国宝」の展示会場用に文化財保存修復活動を解説する教育普及パネルと映像を制作した。 ○平成23年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業「市民と共に ミュージアム IPM」の報告書を3冊刊行した。								
【補足事項】 1) 論文9本（うち館職員7本）を掲載。3月31日刊行。 2) 文化財保存修理についての総論1本をはじめ、文化財の保存、修理、模写・模造・文化財保護の観点から、修理技術者・研究者によるコラム20本を掲載した。総292頁。 3) 分かりやすい解説を加えた教育普及パネル 10 枚を制作、展示映像として「国宝を守る技(17分)」「曝涼と蔵(8分)」「発見！美のふしぎ(5分)」(全てNHKプラネット九州制作)の3本を制作・放映した。 4) 平成23年度 IPM 事業の内容を総括した1冊(総合版)418頁、内容を簡潔に要約した簡易版2冊(研修編58頁、シンポジウム編48頁)を刊行した。 ○特別展図録・特集陳列印刷物10冊を刊行した。(特別展図録4冊、海外展図録1冊、トピック展示目録5冊)								
								
				「よみがえる国宝」展 図録・展示映像DVD				
								
「よみがえる国宝」展 教育普及パネル								
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	19	20	21	22
定期刊行物		1件	—	—	1	1	1	1
特別展図録・特集陳列印刷物		10冊	—	—	6	8	7	11
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館処理番号 3211

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施								
<p>【年度計画】 (国立文化財機構) 1) 日中韓国立博物館長会議へ参加する。 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 (20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 (22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4) 3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 (東京国立博物館) 1) 国際交流協定を締結している博物館及び欧米主要館を中心に、海外の博物館との交流を活発に行う。</p>									
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	国際交流室長 鬼頭智美						
<p>【実績・成果】 (国立文化財機構) 1) 第6回日中韓国立博物館長会議および第3回アジア国立博物館協会 (ANMA) 理事会・定期大会に出席した。(23年9月23日) (4館共通) 1) 韓国、中国より計16名の研究者を招へいし、学術交流および展覧会事業の円滑化に寄与した。 2) 韓国、中国、イギリス、フランスに延べ48名の研究員を派遣し、学術交流および展覧会の準備調査を行った。 3) 特別展「故宮博物院200選」を記念して、国際シンポジウム『『清明上河図』の魅力に迫る—東アジア文化史のなかの『清明上河図』』を開催し、国内外の研究者が活発な意見交換を行った。 (東京国立博物館) 1) 韓国国立中央博物館および中国・上海博物館、故宮博物院との学術交流協定に基づき、研究員の交流を行うとともに、海外での作品調査や国際会議出席などのため海外に研究員を派遣、調査研究および海外館とのネットワーク構築や交流事業の推進を図った。</p>									
<p>【補足事項】 上記研究者招へいおよび研究員派遣の人数については、当館予算で実施した人数の延べ人数を示す。 科学研究費および他機関等外部による経費負担による招へいおよび派遣人数の合計は、 招へい：44人 派遣：102人 であった。</p>									
									
韓国国立中央博物館との学術交流									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
海外からの研究者招へい		16人	6人程度	S		10	15	26	15
海外への研究者派遣		48人	6人程度	S		22	25	16	54
国際シンポジウム開催数		1回	—	—		—	—	1	—
国際シンポジウム参加者数		323人	—	—		—	—	170	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化																																																
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施																																																
【年度計画】																																																	
(4館共通)																																																	
1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 (20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3)																																																	
2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 (22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4)																																																	
3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 (京都国立博物館)																																																	
1) 諸外国における国際会議、研究集会等へ積極的に参加し、研究交流及び研修を行う。																																																	
2) 外国人研究員・研修員の受け入れを行い、海外の研究者との交流を促進する。																																																	
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 久保智康																																														
【実績・成果】																																																	
(4館共通)																																																	
1) 海外からの研究者を21名招へいた。																																																	
2) 研究交流並びに研修のため研究員を海外へ25名派遣した。																																																	
3) 国際シンポジウム「中国近代絵画の形成と日本」(24年2月11日)を開催した。また、北京、上海から講師2名を招いて、土曜講座を開講した(24年1月21日、24年2月25日)																																																	
(京都国立博物館)																																																	
1) 研究交流並びに研修のため研究員を海外へ25名派遣した。そのうち国際会議、研究集会等へ4名を派遣した。																																																	
2) 外国人客員研究員を1名受け入れた。																																																	
【補足事項】																																																	
平成23年度の国際シンポジウムは、24年2月11日に「中国近代絵画の形成と日本」をテーマに開催し、国外の研究者3名が研究発表を行い、パネル・ディスカッションでは活発な討論が行われた。150人が参加し、熱心に聞き入っていた。																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ・特別展覧会「中国近代絵画と日本」 上海劉海粟美術館党支部書記兼任副館長 王新華氏 ほか14名を作品随伴、展示立会い、開会式出席として招へいた。 ・土曜講座：中国近代絵画と日本展関連 北京画院美術館齊白石紀念館館長 吳洪亮氏(24年1月21日) 上海博物館書画研究部主任 單国霖氏(24年2月25日) の2名を講師として招へいた。 ・国際シンポジウム「中国近代絵画の形成と日本」(24年2月11日) 広州美術学院研究員 李偉銘氏 上海大学教授 李超氏 プラハ・ナショナルギャラリー研究員 ミハエラ・ペイチョホヴァー氏 の3名をパネラーとして招へいた。 ・研究員を作品調査、科研費調査及び国際会議出席などで派遣した。 																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>23年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> <th rowspan="5">経年変化</th> <th>19</th> <th>20</th> <th>21</th> <th>22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海外からの研究者招へい</td> <td>21人</td> <td>5人</td> <td>S</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>29</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>海外への研究者派遣</td> <td>25人</td> <td>6人</td> <td>S</td> <td>21</td> <td>18</td> <td>13</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>国際シンポジウム開催数</td> <td>1回</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>国際シンポジウム参加者数</td> <td>150人</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>285</td> <td>190</td> <td>288</td> <td>213</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22	海外からの研究者招へい	21人	5人	S	7	9	29	7	海外への研究者派遣	25人	6人	S	21	18	13	27	国際シンポジウム開催数	1回	—	—	1	1	1	1	国際シンポジウム参加者数	150人	—	—	285	190	288	213
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22																																									
海外からの研究者招へい	21人	5人	S		7	9	29	7																																									
海外への研究者派遣	25人	6人	S		21	18	13	27																																									
国際シンポジウム開催数	1回	—	—		1	1	1	1																																									
国際シンポジウム参加者数	150人	—	—		285	190	288	213																																									
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)																																																
【中期計画記載事項】																																																	
文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。																																																	
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																																													



国際シンポジウム
「中国近代絵画の形成と日本」

【書式A】

施設名 奈良国立博物館処理番号 3213

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化																																												
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施																																												
【年度計画】 (4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 (20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3) 2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 (22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4) 3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 (奈良国立博物館) 1) 学術交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。																																													
担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長 稲本泰生																																										
【実績・成果】 (4館共通) 1) 「誕生！中国文明」展開催に際し中国河南省の文化財関係者を多数招へいたことを初め、中国・韓国の研究者計20名を招へいし、今後の共同調査や展示活動等に向けた実りある情報交換を行った。 2) 職員延べ19名を中国・韓国・ベトナム等諸外国に派遣し、文化財に関する情報収集や現地研究者との交流を行った。 3) 23年度は実績なし。 (奈良国立博物館) 1) 中国・上海博物館及び韓国国立慶州博物館との間で学術交流協定に基づく研究員等の派遣・招へいを行った。また館長他1名を中国・河南博物院に派遣して学術交流協定を更新し、今後の共同調査や展覧会開催に向けて情報を交換した。																																													
【補足事項】 ・「誕生！中国文明」展の展示・撤収に際して中国河南省よりクーリエ計6名、開会に際して代表団4名を招へいた。また作品返却に際し、クーリエとして当館研究員1名を中国河南省に派遣した。 ・平成26年度特別展「百済」開催に向けた情報収集のため、館長他計3名を韓国国立中央博物館・扶余博物館に派遣した。 ・「第63回正倉院展」出陳品に関する調査研究のため、研究員1名をベトナム共和国に派遣した。 ・平成25年度特別展「遼寧省遼代仏教文物(仮称)」展出陳予定作品の事前調査のため、研究員1名を中国・遼寧省に派遣した。 ・韓国国立中央博物館で開催された特別展「肖像画の秘密」の展示・撤収に際し、クーリエとして研究員各1名を派遣した。また正倉院展開催に際し、韓国国立慶州博物館から館長他1名を招へいた。 ・韓国国立慶州博物館との学術交流協定に基づき、同館から研究員2名を各1ヶ月間招へい、当館から職員1名を約1ヶ月間派遣した。また中国・上海博物館との学術交流協定に基づき、同館から職員3名を10日間招へいた。 ・(財)国際交流基金や法人内他施設の招へいた諸外国の博物館職員・文化財関係者等の奈良訪問に際し、案内対応等積極的な便宜供与を行った。																																													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">【定量的評価】項目</th> <th style="text-align: center;">23年度実績</th> <th style="text-align: center;">目標値</th> <th style="text-align: center;">評価</th> <th rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">経年 変化</th> <th style="text-align: center;">19</th> <th style="text-align: center;">20</th> <th style="text-align: center;">21</th> <th style="text-align: center;">22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海外からの研究者招へい</td> <td style="text-align: center;">20人</td> <td style="text-align: center;">6人程度</td> <td style="text-align: center;">S</td> <td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;">経年 変化</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td style="text-align: center;">29</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> <tr> <td>海外への研究者派遣</td> <td style="text-align: center;">19人</td> <td style="text-align: center;">6人程度</td> <td style="text-align: center;">S</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">30</td> <td style="text-align: center;">14</td> </tr> <tr> <td>国際シンポジウム開催数</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>国際シンポジウム参加者数</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">197</td> <td style="text-align: center;">150</td> </tr> </tbody> </table>				【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21	22	海外からの研究者招へい	20人	6人程度	S	経年 変化	9	9	29	9	海外への研究者派遣	19人	6人程度	S	6	6	30	14	国際シンポジウム開催数	—	—	—	—	—	1	1	国際シンポジウム参加者数	—	—	—	—	—	197	150
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21		22																																				
海外からの研究者招へい	20人	6人程度	S		経年 変化	9	9		29	9																																			
海外への研究者派遣	19人	6人程度	S			6	6		30	14																																			
国際シンポジウム開催数	—	—	—			—	—		1	1																																			
国際シンポジウム参加者数	—	—	—			—	—	197	150																																				
総合評価	S A Ⓑ C F (S、Fの理由)																																												
【中期計画記載事項】 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。																																													
中期計画に対して順調に成果を上げているか。		ほぼ順調																																											



特別展「誕生！中国文明」開会式

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施								
<p>【年度計画】 (4館共通)</p> <p>1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招聘し、海外の研究者との交流を促進する。 (20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3)</p> <p>2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。 (22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4)</p> <p>3) 国際的な講演・研究集会、シンポジウムを開催する。 (九州国立博物館)</p> <p>1) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに海外博物館等との交流を実施する。 2) 海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。</p>									
担当部課	交流課 総務課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 課長 課長	宮本裕一 岩崎英明 本田光子					
<p>【実績・成果】 (4館共通)</p> <p>1) 海外の博物館・美術館等の研究者を21人招へいた。 ・平成23年度文化庁外国人芸術家・文化財専門家招へい事業の実施に係る交流促進のため韓国の学芸研究室長を招へいた。 ・平成23年度文化庁在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業の実施に係る研究者を招へいた。</p> <p>2) 当機構職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため56人派遣した。 職員を研究交流及び研修等のために内蒙古博物院(中国)、国立中央博物館(韓国)、ベトナム歴史博物館等に派遣した。</p> <p>3) 朝鮮半島の古代国家である百済と日本について考える国際シンポジウム「百済文化と古代日本」を開催した。 (24年3月10日開催) (九州国立博物館)</p> <p>1) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備し、海外博物館等との交流を実施した。 2) 大英博物館および中国内モンゴルフフホト市博物館の保存修復技術者が保存修復施設内で研修を受けた。 内蒙古文物考古研究所・内蒙古博物院より研究者を招へいし、文化財保存交流セミナーを開催した。</p>									
<p>【補足事項】 (4館共通)</p> <p>1) ・当館の展示方法、特別展への協力等についての意見交換を行った。 ・九州・京都・奈良国立博物館の文化財保存修復施設での技術交流等を行った。</p> <p>2) ベトナム国立歴史博物館と学術文化交流協定を締結した。 (九州国立博物館)</p> <p>1) 2団体と学術文化交流協定を締結した。 (23年7月20日 中国文物交流中心、23年12月9日 ベトナム国立歴史博物館)</p> <p>2) 大英博物館のオーエン氏の研修の成果を当館文化財保存交流セミナーにおいて発表した。内モンゴルフフホト市博物館のハン氏は公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の助成による長期研修を行った。</p>									
 <p>国際シンポジウム 「百済文化と古代日本」</p>									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年 変化	19	20	21	22
海外からの研究者招へい		21人	3人程度	S		38	18	37	9
海外への研究者派遣		56人	4人程度	S		44	35	46	77
国際シンポジウム開催数		1回	—	—		4	1	1	1
国際シンポジウム参加者数		263人	—	—		586	385	300	117
総合評価	S A B C F (S、Fの理由)								
<p>【中期計画記載事項】 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。</p>									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 東京国立博物館処理番号 3311

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム							
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。								
担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	課長 神庭信幸					
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・特定非営利活動法人文化財保存支援機構(NPO-JCP)が主催する専門家セミナーに当館が共催し、当館を会場として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ」(平成23年9月1日～9月11日の10日間)を開催した。当館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場・修理施設・展示施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容は、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。受講生は全国から30名が参加した。 ・レベルⅠの応用編として「文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅡ」(平成23年10月26日～11月2日の7日間)を別会場において開催し、受講生は7名であった。 ・大学院生のインターンシップを4名受け入れ、当館の臨床保存と包括的保存について研修を実施した(平成24年2月27日～3月9日)。								
【補足事項】								
 <p>文化財保存修復専門家養成実践セミナーの講義</p>								
【定量的評価】								
項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
保存修理事業者を対象とした研修会開催回数	2回	—	—		2	2	2	2
参加者数	37人	—	—		—	50	60	49
インターン受入れ	4人	—	—	—	3	2	3	
総合評価	S Ⓐ B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				ほぼ順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム								
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	副部長兼保存修理指導室長 村上 隆						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また2ヶ月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。 ・当館開催の特別展覧会において、修理技術者に対する定例の研修会(熟覧)を実施した。(計4回・160人) 参加者「法然 その生涯と美術」展 52人 「百獣の楽園 美術にすむ動物たち」展 34人 「細川家の至宝」展 57人 「中国近代絵画と日本」展 17人 ・文化財修復に関わる大学院生のインターンシップ実習を実施し、報告書を作成した。(4人) ・保存修復技術を専攻する学生(大学院生)のための研修会を実施し、研修報告を行なった。(16人)									
【補足事項】 ・文化財保存修理所巡回によって、修理技術者へ専門的な立場から指導・助言を行うことで、双方の見識にプラスとなった。 ・文化財修復に関わる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の技術者育成を考える上でも意義は大きい。 ・保存修復技術を専攻する学生(大学院生)に、修理現場の見学・説明などの研修を実施することで、学生の意欲や目標意識の向上を図ることができた。									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	19	20	21	22	
保存修理事業者を対象とした研修会				経 年 変 化					
開催回数		4回	—		—	3	3	4	4
参加者数		160人	—		—	145	144	155	166
インターン受入れ		4人	—		—	1	—	3	2
大学院生のための研修会参加者数		13人	—	—	—	—	—	16	
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 奈良国立博物館処理番号 3313

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム							
【年度計画】 (4館共通) 1) 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。								
担当部課	学芸部保存修理指導室	事業責任者	室長 谷口耕生					
【実績・成果】 1) <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の保存修復専門家による文化財保存修理所各工房での研修・視察を合計6回受け入れ、各工房技術者との間で情報交換を行った。 ・6月4日：文化財保存修復学会第33回大会における学会員による視察(40名)。 ・6月29日：奎章閣韓国学研究院の保存科学研修(5名)。 ・7月25日：韓国慶州国立博物館との学术交流に伴う同館保存担当研究員による研修・視察(1名)。 ・8月9日：高岡地域文化財等修理協会(富山県)の修理技術者研修会(7名)。 ・9月20日：アメリカ連邦議会図書館修復士による視察・意見交換会(2名)。 ・11月21日：フィレンツェ修復研究所修復士による視察・意見交換会(10名)。 ・24年3月26日に文化財修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催した(32名)。 								
【補足事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・6月4日に保存修復専門研究者、技術者たちの学会である文化財保存修復学会第33回大会が奈良県新公会堂で行われ、学芸部保存修理指導室長が実行委員会メンバーとして参加した。 ・文化財保存修理所技術者研修会 24年3月26日に文化財修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催し、漆工室工房代表者による漆工品修理に関する報告を踏まえた討議を実施した。参加者は32名。 								
								
文化財保存修理所における研修・視察								
【定量的評価】項目								
保存修理事業者を対象とした研修会	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
開催回数	7回	—	—		2	1	1	6
参加者数	97人	—	—		—	—	—	—
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(3) 保存修理事業者への研修プログラム								
【年度計画】 (4館共通) 1)保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。									
担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長	本田光子					
【実績・成果】 1) ・保存修理技術者、文化財保存業務従事者、文化財保護行政担当者、博物館美術館等関係者を対象としたセミナーを開催した。 ・文化財保存修復施設内で修理事業を行っている国宝修理装演師連盟の協力を得て、中国から研修生を1名受け入れた。 ・保存・修理事業者の協力を得て、紙文化財の保存講座・研修および、IPM 普及のための講座・研修を開催した。									
【補足事項】									
○保存修理技術者を対象とした研修会(計10回・263人)									
・文化財保存交流セミナー 保存修理技術者、文化財保存業務従事者、文化財保護行政担当者・博物館美術館等関係者を対象としたセミナーで、文化財保存に関わる知識・技術の研鑽を深めると同時に、参加者同士の交流も目指している。 「大英博物館 オーエン・E・ケリー 日本での研修について」 23年11月25日 参加者 13名 「東日本大震災の文化財レスキュー事業」 24年3月6日 参加者 57名 「鷹島沖海底遺物から元寇の実態を探る」 24年3月21日 参加者 49名									
・紙文化財の保存講座・研修(協力：国宝修理装演師連盟) 文化財保存修復研修(大学生8名) 23年8月15日～19日 古文書保存基礎講座(文化財関係者28名) 24年1月17日、21日									
・IPM普及のための研修会(連携協力：NPO法人ミュージアムサポートセンター 文化財保存活用支援センター) 「市民と共に ミュージアム IPM」ミュージアム IPM 支援者育成事業(文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業) 研修会5回 参加者108名									
○一般向け講演会等									
・文化財保存交流セミナー 当セミナーは例年、保存修理事業者等を対象に、年3～4回実施しているが(上記)、本年度はこれに加えて、文化財保存修理の歴史をテーマとした特別展の開催中に一般向けの公開講演会を4回実施した。 「日本の宝を守る、技とところ」 23年7月31日 参加者 238名 「日本の宝を守る、蔵を継ぐ」 23年8月6日 参加者 187名 「日本の宝を守る、美を伝える」 23年8月7日 参加者 255名 「日本の宝を守る、文化を伝える」 23年8月21日 参加者 110名									
・IPM普及のための講演会(共催：NPO法人ミュージアムサポートセンター 文化財保存活用支援センター) 「曝涼はIPMのルーツ？」 23年7月2日 参加者 38名 「身近な虫」 24年1月14日 参加者 48名									
・IPM普及のための講演会(連携協力：NPO法人ミュージアムサポートセンター 文化財保存活用支援センター) 「市民と共に ミュージアム IPM」(24年1月14日) ミュージアム IPM 支援者育成事業(文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業) シンポジウム1回 参加者107名									
○中国からの研修生 公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の助成を得て、内蒙古フフホト市博物館より、装演技術の修練のために来日した。期間は、今年度を含め3年以上を予定している。									
【定量的評価】項目									
保存修理事業者を対象とした研修会	開催回数	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
	参加者数	10回 263人	— —	— —		—	11	10	20
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。 中期計画に対して順調に成果を上げているか。 順調									



文化財保存交流セミナー
「日本の宝を守る、技とところ」



文化財保存修復研修



古文書保存基礎講座

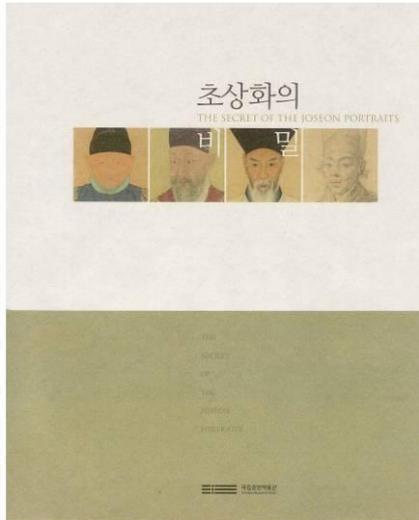


「市民と共に ミュージアム IPM」

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 3411

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(4) 収蔵品の貸与							
<p>【年度計画】</p> <p>(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。 2) 海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する(海外交流展出品作品を含む)。</p>								
担当部課	学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 富田 淳					
<p>【実績・成果】</p> <p>(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 国内の博物館等122機関に865件の作品を貸与した。 (東京国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 長野県立歴史館、館山市立博物館と協力して考古資料の相互貸借を実施した。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。 2) 海外の美術館・博物館等7機関に40件の作品を貸与した。</p>								
<p>【補足事項】</p> <p>(東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 東日本大震災の影響を受けて、貸与が確定していた4機関の企画が取り止めとなり、3機関の貸与もしくは返却の日程が変更された。この時期の貸与品に損傷はなかった。 (東京国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>1) 考古資料相互貸借事業経費により、長野県立歴史館に14件を貸与、53件を貸借、館山市立博物館に5件を貸与、20件を借用した。借用品により当館では特集陳列「赤の考古学」、特集陳列「古代のまつり」を開催した。 (東京国立博物館)</p> <p>2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北京故宮博物院で開催された「蘭亭特展」には当館から2件の文化財を貸与し、作品展示・作品撤収・輸送随伴に延べ2名の人員を派遣し、開幕式・学術シンポジウムにも参加するなど、多大な協力を行った。 韓国国立中央博物館で開催された「肖像画の秘密」には、当館から3件の文化財を貸与し、作品展示・作品撤収・輸送随伴に延べ2名の人員を派遣し、国内の他館の作品輸送にも随伴するなど、多大な協力を行った。 								
 <p>韓国国立中央博物館 「肖像画の秘密」図録</p>								
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	19	20	21	22
貸与件数		905件	—	—	1,302	1,125	1,104	1,315
うち国内の貸与件数		865件	—	—	1,118	1,012	913	1,155
うち海外の貸与件数		40件	—	—	184	113	191	160
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(4) 収蔵品の貸与								
【年度計画】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。									
担当部課	学芸部列品管理室	事業責任者	室長 鬼原俊枝						
【実績・成果】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) ・74機関に対し429件の収蔵品貸与を行った。(うち海外1機関に対し3件) 館蔵品の貸与件数：246件 寄託品の貸与件数：183件 計 429件 ・ウェブページで「貸出作品リスト」の公開を行った。(詳細は処理番号2112-1参照)									
【補足事項】 ・新館建設中に公私立博物館・美術館からの貸与依頼に応じて、積極的に収蔵品の貸与を行っている。今年度は、静岡県立美術館において「京都国立博物館名品展 京都千年の美の系譜 祈りと風景」および、細見美術館における「京都国立博物館所蔵 典雅なる御装束—宮廷のオートクチュール」展の開催に協力し(詳細は処理番号 2122-5、2122-6 参照)、前者に 66 件、後者に 63 件の館蔵品を貸与した。特に前者の例では、本展開催に先んじて、前年度に同館の学芸員を一年間研修員として受け入れ、出陳作品の選定を時間をかけて行った。									
									
静岡県立美術館における 京都国立博物館名品展会場の展示状況									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
貸与件数		429 件	—	—	年 変 化	171	246	428	297
うち国内の貸与件数		426 件	—	—		168	245	400	281
うち海外の貸与件数		3 件	—	—		3	1	28	16
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

【書式A】

施設名 奈良国立博物館処理番号 3413

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(4) 収蔵品の貸与								
【年度計画】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。 (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。									
担当部課	学芸部	事業責任者	美術室長兼列品室長 岩田茂樹						
【実績・成果】 (東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館) 1) 館蔵品と寄託品を、国内外合わせて37の機関に、計118件貸し出した。 [貸出先内訳] ・国立5件 公立22件 私立8件 海外2件 [貸与作品内訳] ・国宝 9件(館蔵品2件・寄託品7件) 重要文化財 41件(館蔵品10件・寄託品31件) その他 68件(館蔵品43件・寄託品25件) ・館蔵品 55件(絵画17件・彫刻3件・書跡1件・工芸14件・考古20件) ・寄託品 63件(絵画31件・彫刻13件・書跡3件・工芸12件・考古4件) (東京国立博物館・奈良国立博物館) 1) 浜松市博物館との間で相互貸借事業を実施した。 貸与品 : 銅鐸 借用品 : 伊場遺跡出土鱈付壺形土器・伊場遺跡出土装飾高杯・鳥居末遺跡出土脚付家形壺・鳥居松遺跡出土土器									
【補足事項】 貸与申請のあったもののうち、作品の保存状態に問題がないものについては、展示期間や会場の温湿度の設定、また警備体制などを調査したうえで、慎重に、しかし可能な限りその全てに 대응するように対処した。結果、100件を超える貸与件数となり、公私立等の博物館の展示の充実に寄与しえたと考える。									
【定量的評価】 項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
貸与件数		118件	—	—		137	163	108	159
うち国内の貸与件数		113件	—	—		134	161	107	145
うち海外の貸与件数		5件	—	—		3	2	1	14
総合評価	S A B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(4) 収蔵品の貸与								
【年度計画】 (九州国立博物館) 1) 収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。									
担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	主任研究員 原田あゆみ						
【実績・成果】 (九州国立博物館) 1) 国内 25 機関・海外 1 機関に所蔵品および寄託品を貸与した。(東京国立博物館からの長期管理換品を含む)									
【補足事項】 (九州国立博物館) 1) ・ 国内機関への貸与については、文化庁・東京国立博物館ほか、九州・沖縄管内外の公立博物館・美術館(板橋区立美術館・サントリー美術館・大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館・九州歴史資料館・北九州市立自然史・歴史博物館・飯塚市歴史資料館・伊都国歴史博物館・求菩提資料館・大分県立歴史博物館・熊本市立熊本博物館・八代市立博物館未来の森ミュージアムなど)からの出品要請に協力し、国宝 2 件・重要文化財 3 件を含む所蔵品・寄託品を貸与した。 ・ 海外機関への貸与については、大韓民国三星美術館への出品要請に協力し、寄託品を貸与した。									
									
<p>唐船・南蛮船図屏風 (当館所蔵) サントリー美術館「南蛮美術の光と陰<<泰西王侯騎馬図屏風の謎>>」展出品</p>									
【定量的評価】項目		23 年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
貸与件数		119 件	—	—	年 変 化	104	106	89	165
うち国内の貸与件数		118 件	—	—		73	76	88	131
うち海外の貸与件数		1 件	—	—		31	30	1	34
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 3511

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進								
【年度計画】									
(4館共通)									
1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (東京国立博物館)									
1) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。									
担当部課	学芸研究部	事業責任者	部長 伊藤 嘉章						
【実績・成果】									
(4館共通)									
1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、126件の援助・助言を行った。 ・文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力(22件) ・公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言(23件) ・講演会やセミナー等における講演等での協力(13件) ・作品の展示・保存環境についての調査・指導(13件) ・文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(55件)									
(東京国立博物館)									
1) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行った。									
【補足事項】									
○文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力 ・文化庁文化審議会専門委員会出席 ・松戸市小金の東漸寺所蔵「二十五菩薩来迎図」を市指定文化財に指定するに当たっての助言 ・逗子市教育委員会・葉山町教育委員会 長柄桜山1号墳の発掘調査・整備に関する助言 他									
○公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言 ・毎日新聞社・新美術館「熊谷恒子展」監修 ・「金沢能楽美術館 開館5周年記念特別展 東京国立博物館所蔵 金春座 伝来能面・能装束」展にかかる能面・能装束の展示、撤収指導 ・ポーランド軍事博物館 日本の武器武具などの展示、保存方法の指導助言 ・貨幣博物館 ウェブサイト構築・運営に関する助言 他									
○講演会やセミナー等における講演等での協力 ・福島県立美術館 記念講演会「ギターコレクションにみる近世絵画の魅力」講演会講師 ・文化庁 第7回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー(第2年度)魅力ある企画・展示の実現『展示構成と会場デザイン』の講師 ・全国美術館会議 美術情報・資料の活用法—展覧会カタログからWebまで—(情報・資料研究部会企画セミナーⅢ)第1講「展覧会カタログ」講師 他									
○作品の展示・保存環境についての調査・指導 ・横浜ユーラシア文化館、田原市博物館、広島県立美術館 他									
○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援) ・仙台市博物館、東北歴史博物館、岩手県立博物館、陸前高田市立博物館、奥州市埋蔵文化財調査センター、石巻文化センター 他									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
公私立博物館・美術館への援助・助言件数		126件	-	-		124	134	139	84
総合評価	S A B C F (S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】									
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調					



石巻文化センターでの被災文化財等救出作業の様子

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化								
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進								
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。									
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 西上実						
【実績・成果】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、91件の援助・助言を行った。 文化財の展示、修理にかかる指導助言 (17件) 文化財の調査に関する指導助言 (45件) 講演会、セミナー等における講演等での協力 (11件) 地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力 (13件) 文化財レスキュー事業に関する被災文化財等救出作業支援 (5件)									
【補足事項】 ○文化財の展示、修理にかかる指導助言 ・静岡県立美術館 「京都千年の美の系譜」展にかかる展示・展示替・撤収作業 ・九州国立博物館 特別展「よみがえる国宝-守り伝える日本の美-」に係る作品撤収作業立ち合い 他 ○文化財の調査にかかる指導助言 ・島根県教育庁文化財課 石見銀山遺跡調査に伴う調査指導 ・野崎家塩業歴史館 野崎家塩業歴史館所蔵資料の調査指導 他 ○講演会、セミナー等における講演等での協力 ・徳川美術館 夏期講座の講師 ・京都市動物園 「百獣の楽園 in 京都市動物園」講演会講師 他 ○地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力 ・川西市文化財審議委員会 ・滋賀県文化財保護審議会 他 ○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援) ・国立文化財機構として理事長東北視察 ・東北大学埋蔵文化財センターにて支援 ・互理町立郷土資料館にて支援 他									
【定量的評価】項目		23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
公私立博物館・美術館への援助・助言件数		91件	—	—		81	114	114	123
総合評価	S (A) B C F(S、Fの理由)								
【中期計画記載事項】 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。					順調				

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

処理番号 3513

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化							
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進							
【年度計画】								
(4館共通)								
1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (奈良国立博物館)								
1) 聖徳太子1390年御遠忌記念「法隆寺展」(主催：法隆寺・日本経済新聞社主催、会場：日本橋高島屋ほか)に学術協力を を行う。								
担当部課	学芸部企画室	事業責任者	室長 稲本泰生					
【実績・成果】								
(4館共通)								
1) 国内外の博物館・美術館等の運営や展示活動への協力(98件)を行い、今年度は特に震災後の文化財レスキューへの参加などを通して、わが国における中核的な博物館の一角を担う存在としての責務を果たすことができた。これらの協力を通して、当館収蔵品や仏教美術・考古遺物等の普及に資する活動や、今後の運営に有益な他館職員との信頼関係形成という面においても、十分な実績を挙げることができた。								
・文化財レスキュー事業に関する被災文化財等救出作業支援(6件) (奈良国立博物館)								
1) 聖徳太子1390年御遠忌記念「法隆寺展」(主催：法隆寺・日本経済新聞社、会場：日本橋高島屋及びなんば高島屋)に学術協力を を行い、開催(東京会場：24年3月3日～20日、大阪会場：同3月29日～4月16日)に際して出陳品の選定と調査・撮影・点検・輸送・展示、会場構成に対する助言、展覧会図録の編集・執筆等を行った。								
【補足事項】								
・23年6月から7月にかけて、東日本大震災で被災した宮城県内の博物館等施設にて実施された文化財レスキュー事業に、学芸部職員4名を派遣した。作業従事の延べ日数(各人の現地での活動日数総計)は30日。(6件)								
・岐阜市歴史博物館で開催された「国宝 薬師寺展」(23年7月29日～10月2日)に薬師寺からの寄託品が出陳された際、展示・撤収作業を指導した。								
・韓国国立中央博物館における特別展「肖像画の秘密」(23年9月27日～11月6日)開催にあたり、日本からの出陳品の出陳交渉及び輸送に際しての、随行及び助言を行った。								
・浜松市博物館が開催した特別展「銅鐸から銅鏡へ」(23年7月23日～9月4日)に貸与した館蔵品の輸送に際し、随行及び助言を行った(平成23年度考古資料相互活用促進事業による)。								
・平成24年度に、神奈川県立金沢文庫と共催で当館及び同文庫を会場として開催する特別展「解脱上人貞慶一鎌倉仏教の本流」(会期=奈良会場：4月7日～5月27日、神奈川会場：6月8日～7月29日)に向け、金沢文庫と合同で展覧会の構成・出陳品の内容など調整・検討を重ねた。								
・サントリー美術館の特別展「不滅のシンボル 鳳凰と獅子」(23年6月8日～7月24日)に出陳された、法隆寺及び宮内庁正倉院事務所の所蔵品の輸送・展示作業に際し、指導を行った。								
・土浦市立博物館の特別展「暮らしをささえる女性たちー紡ぐ・織る・仕立てる・繕う」(会期：24年1月7日～2月19日)開催にあたり、土浦の地から平城京に奉獻された調布(法隆寺蔵、重要文化財)の1260年ぶりの里帰りについて、出陳交渉随行及び助言等の協力を行った。								
・東大寺ミュージアム(23年10月10日オープン)の開館準備に際し、施設面や展示方法等種々の情報提供を行い、宝物輸送・展示作業に際しても助言した。また学芸部研究員中の13名が、開館記念特別展図録『奈良時代の東大寺』に論文・解説を寄稿した。								
・大津市歴史博物館の調査で新たに発見された木造阿弥陀三尊像(西教寺蔵、行快作)のエクス線写真を、同館の依頼を受け、同館での公開(7月20日～9月4日)に先んじて撮影した。								
・(財)大和文華館の理事及び評議員、(財)松伯美術館等の理事、龍谷大学龍谷ミュージアムの客員研究員等の役職の委嘱を受け、当該職員はこれら諸施設の運営・協力を助言を行った。								
								
文化財レスキュー事業の様子								
【定量的評価】項目								
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22
	98件	—	—		5	5	25	35
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)							
【中期計画記載事項】								
公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。								
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調				

中項目	3 我が国における博物館の中核としての機能の強化																								
事業名	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進																								
【年度計画】 (4館共通) 1) 公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。 (九州国立博物館) 1) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。 2) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員・ボランティアのためのIPM(総合的有害生物管理)に関する専門講座を開催する。																									
担当部課	総務課 学芸部博物館科学課	事業責任者	課長 課長	岩崎英明 本田光子																					
【実績・成果】 (4館共通) 1) 公私立博物館等で開催された研究集会及び講演会において指導・助言を行った。(97件) ○文化財の調査に係る助言(20件) ○文化財の保存修理にかかる援助、助言(19件) ○作品の展示及び運営等についての指導、助言(26件) ○講演会、セミナー等における講演(24件) ○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)(8件) (九州国立博物館) 1) 福岡県教育委員会と筑紫野市歴史博物館との共催により文化財関係者に向けて「古文書保存基礎講座」を実施した。 2) 地域の自治体と実行委員会を組織し、文化庁補助金を得て、「市民と共に ミュージアム IPM」事業を実施し、文化財関係者及び市民等に向けての研修会「ミュージアム IPM 支援者研修」を実施した。																									
【補足事項】 (4館共通) 1) ○文化財の調査に係る助言 ・九重町教育委員会：X線CTによる大分県指定無形民俗文化財「玖珠神楽」神楽面の調査にかかる助言 ○文化財の保存修理にかかる援助、助言 ・宮崎県都城市教育委員会：市所蔵文化財の保存修理についての援助、助言 ○作品の展示及び運営等についての指導、助言 ・静岡県立美術館：特別展「草原の王朝 契丹」に係る展示指導、助言 ○講演会、セミナー等における講演 ・奈良女子大学：増井研究室セミナーでの講座 ・筑紫女学園大学・短期大学部：龍谷総合学園 第33回大学短大宗教教育連絡協議会での講演 ・佐賀県教育委員会：佐賀城築城400年記念の講演会での講演 ・一般社団法人文化財保存修復学会：公開シンポジウムでの基調講演 ・筑紫野市歴史博物館：九州国立博物館特別展展示解説講座講師 ○文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援) ・平成23年6月から7月にかけて、東日本大震災で被災した宮城県内の博物館等施設にて実施された文化財レスキュー事業に、学芸部職員延べ8人を派遣した。作業従事の延べ日数は65日。 (九州国立博物館) 1) 「古文書保存基礎講座」(第6回) 主催：九州国立博物館・福岡県教育委員会・筑紫野市歴史博物館 協力：国宝修理装演師連盟 本研修は、協力団体共催の「寒糊炊」にあわせて毎年開催している。 2) 「ミュージアム IPM 支援者研修」 主催：「市民と共に ミュージアム IPM」実行委員会(九州国立博物館、春日市教育委員会、大野城市教育委員会、筑紫野市教育委員会、太宰府市教育委員会、那珂川町教育委員会)、連携協力：財団法人太宰府顕彰会、NPO法人文化財保存活用支援センター、NPO法人ミュージアムIPMサポートセンター、九州・山口ミュージアム連携事業実行委員会、九州歴史資料館、福岡県立美術館、福岡市美術館、筑紫野市歴史博物館、奴国の丘歴史資料館太宰府市文化ふれあい館、大野城市歴史資料展示室)により、基礎編3回、技術編・実践編各1回を実施。参加総数 101名																									
<table border="1"> <tr> <td>【定量的評価】項目</td> <td>23年度実績</td> <td>目標値</td> <td>評価</td> <td rowspan="2">経年変化</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>公私立博物館・美術館への援助・助言件数</td> <td>97件</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>38</td> <td>47</td> <td>39</td> <td>77</td> </tr> </table>									【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22	公私立博物館・美術館への援助・助言件数	97件	—	—	38	47	39	77
【定量的評価】項目	23年度実績	目標値	評価	経年変化	19	20	21	22																	
公私立博物館・美術館への援助・助言件数	97件	—	—		38	47	39	77																	
総合評価	S (A) B C F (S、Fの理由)																								
【中期計画記載事項】 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。																									
中期計画に対して順調に成果を上げているか。				順調																					



古文書保存基礎講座